

月ユニット

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	3	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		1 外部評価1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた所でのなじみの人達といつもの1日を送れる、楽しく笑いの絶えない」という言葉を忘れずに職員も一緒に楽しみ日々生きがいをもった生活を提供できるように取り組んでいる。	0	
		2 外部評価2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議やミーティングなどで理念、方針を説明し再度確認している。スタッフルームや各個人の名札の裏に理念を掲示し実践への働きに努めている。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関先に理念を掲示し、入居時ご家族には、ゲル・プホームの理念を説明している。家族会や運営推進会議などにも理念に基づいてケアを行っていることを説明している。	0	
		2	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)		1	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々にあいさつを交わし、いつでも気軽に立ち寄りもらえる関係作りに努めている。	0	
	5 外部評価3	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭りや近所の幼稚園の運動会などに入居者と参加し人々との交流に努めている。また、ホームでの夏祭りや他の行事の案内状を町内会の方に配布している。	1	町内会の清掃や老人会の活動などもっと積極的に参加させて頂き、地域との繋がりを深めていきたいと思っている。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2 支 地 域 合 の い の	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	1階地域サロンで介護予防教室やボランアの集まりが定期的に行われているので、職員も参加し話し合う機会となっている。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)		2	
	3 理 念 を 実 践 す る た め の 制 度 の 理 解 と 活 用	7 外 部 評 価 4	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、職員全員で外部評価には取り組んでいるので意義は、理解できている。前回指摘のあった改善点についての取り組みを行っている。	1	警察や消防署とは、もっと関わる機会を増やしていきたい。
		8 外 部 評 価 5	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際にサービス内容や評価への取り組みについての報告をし、地域の代表の方々とモニタリングをし意見交換をしている。	0	
		9 外 部 評 価 6	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの方に行事の案内を	1	運営推進会議を含めて市との関わりを積極的に持ち、質の向上に繋げたい。
		10 外 部 評 価 7	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人の研修に参加したり、その報告会も含めての勉強会をおこなっている。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し、その内容を伝達し勉強会を行っている。各個人の普段の関わりを振り返ってもらい虐待を認識できるようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)		0	
理念に基づく運営	理念を 実践す るた めの 体制	12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、話しやすい雰囲気を作り、家族が納得されるまで説明し分かりやすい表現や事例を用いて説明を行なっている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、苦情や意見を頂いた時は、速やかに話し合いを行ない原因を考え対策を立て運営に反映している。	0	
		14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活や行事の写真を廊下に展示したり、スクラップにとじたりしている。面会や支払時に日常生活の状況を詳しく報告している。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、苦情箱を設置している。こちらから意見がないかお尋ねし、意見を頂いた時は、迅速に問題を解決して今後のサービスに反映させるようにしている。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議、リーダー会議を月1回行っている。職員間で意見を交換する機会を多くし、業務やケアの見直しを行い反映させている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	月始めに1カ月勤務表を作成し、行事や会議に合わせて必要な人員の確保ができるようにしている。職員の生活を重視した上で調整を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に 基づく 運営	4	18 外部 評価 10	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限におさえている。異動や離職後もホームへの面会を促したり、行事に参加してもらったりして、入居者にダメージを与えないように努めている。	0	
	5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)		自己評価6項目・外部評価4項目	0	
	5 人材の 育成と 支援	19 外部 評価 11	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集にあたっては、性別・年齢などの制限は行っていない。管理者が面接を行い、グループホームでの就職が適切か判断し採用を決定している。	0	
		20 外部 評価 12	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加したり、全体会議時において人権教育を行っている。	0	
		21 外部 評価 13	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人で行う研修や外部研修に参加している。職員全員が、年に1回以上参加できるようにしている。研修後は報告会を行い、参加できなかった職員にも情報を伝えている。	0	
		22 外部 評価 14	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、研修や勉強会にも積極的に参加している。他のホームの職員と交流する機会になり、よりよい情報交換の場となっている。	0	
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談や食事会を行い、悩みを聞いたり気兼ねなく話を聞き、発散の場になっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課の自己評価で自分自身を振り返り、モチベーションが上がるように努めている。職員に定期的にアンケートをとり、働きやすい職場の環境作りも行っている。本人の意向を重視しながら資格取得に向けた支援を行っている。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 1 0 項目・外部評価 2 項目	0	
安心と信頼 に向けた関係作り と支援	1 相談から 利用に至る までの関係 づくりとそ の対応	1	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)	自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	0	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に見学に来て頂いたり、自宅や施設などへ訪問し、話を聞いている。面談時は家族やケアマネージャーと同席してもらい、話しやすい雰囲気を作り、必要な情報を収集している。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームを見学してもらい、見学にこられた時によく話を聞くようにしている。利用を開始する前に、入居申込書に今後の希望など記入してもらいサービスに繋げている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在利用されているサービス内容を確認し、利用できるサービスの種類や内容について説明をおこなっている。また、グループホームとはどういうところか、サービス内容についても説明を行っている。	0	
		28	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学に来て頂き、ホームの雰囲気に馴染めそうか判断して頂いている。入居時に本人が使いなれた馴染みの家具やものを持参して頂くようにしている。本人の生活リズムやできることなどを把握した上で、他入居者との会話の橋渡しを行ったり、コミュニケーションをとっている。	0	
		15	外部評価			
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)				自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	0	
係り2 継続 これ な ま ま の 支 援	29	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の会話の中から励まして頂いたり、野菜や花の世話を教えてもらいながら一緒に行ったりしている。	0		
	外部 評価 16					

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や支払の時を利用して本人と家族を交え、最近の様子を伝えたり状態が変化した時はその都度連絡を取り報告している。月ごとの行事は、事前に年間予定表を渡して家族の参加をお願いし、楽しい時間や会話を共にしている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話がかかってきた時は、身体状況や生活ぶりを報告している。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族に見学に来て頂き、ホームの雰囲気馴染めそうか判断して頂いている。入居時に本人が使いなれた馴染みの家具やものを持参して頂くようにしている。本人の生活リズムやできることなどを把握した上で、他入居者との会話の橋渡しを行ったり、コミュニケーションをとっている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	本人や家族が面会を断らない限り、友人や近隣の方々の面会をおこなっている。本人が希望されれば、電話を繋いだり、希望される近くの場所までお連れしている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もハガキ・電話・メールなどで連絡を取っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価 17項目・外部評価 6項目	2	
1 一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)				自己評価 3項目・外部評価 1項目	0	
1	35 外部 評価 17	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族とコミュニケーションを取るなかで、日頃の思いや今後の希望などをさりげなく聞きだすように務めている。その人らしい在り方はなにかをセンター方式やケアカンファを通じて話し合いを行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、情報提供を受けている。日頃の会話の中から情報を聴取している。介護記録やセンター方式を読み把握している。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々入居者を観察し、心身状態やできる能力などについて申し送りやケアカンファを通じて把握している。変化時は、その都度ケアの方法を検討して早期に対応している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい生活ができるように、センター方式を使用し、本人・家族・主治医・職員などと協力してモニタリングを行ない、介護計画を作成している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っている。状況が変化した時は、すぐにモニタリングを行ない、状況に即した介護計画を立て直している。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、チェック表を個別に記入している。介護記録には、ありのままの状態をわかりやすい言葉で記録してもらい情報を共有している。定期的にモニタリングを行ない介護計画に活かしている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	1		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院できない時は、家族に代わって同行する等、その時々々に柔軟な対応をとっている。	1	グループホームでのショートステイを検討している。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	各行事に地域のボランティアの方に参加して頂いている。近隣商店街の方々には定期的に来て頂いて話をしたり、買物に同行したりと支援頂いている。交番にも便りを配布したりして関係作りを行っている。	0	
		43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要に応じて、他のサービスが受けられるよう連絡体制をとっている。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行事の案内など連絡し、交流の機会は作っているが、日時が調整がつかなかった。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、月2回の訪問診療を行っている。また緊急な受診の時は、当事業所の職員が付き添い、医師へ状況を伝えている。受診後は、主治医への報告も行っている。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	運営体である、ながら医院と連携をはかり、認知症の診断・治療・対応方法について、指示・助言・相談を受けることができる。なお、在籍する医師は認知症学会に所属している。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が、常に勤務しているので、健康管理や医療の活用はすぐに対応できる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	定期的に面会に行き、話をしながら観察したり、家族と連絡を取って状態を把握している。早期退院に向けて、医療連携室と連絡取り、話し合いや情報交換を行っている。	0	
		49 外部 評価 22	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取っている。入居時に重症化した場合の指針に同意を頂き職員全員で何度も話し合いを行ない方針を共有している。終末期に対する意向が家族の中で変わることがあるので、何度も家族と話し合いを行っている。その中で家族の思いや本人の意思を職員へ伝え、意思を尊重しながら行っている。	1	ターミナルケアについては、研修などに参加し、知識を深めホームでの方針に活かしたい。
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームは、医療機関ではないため、医療行為ができないことを家族に伝え、ホームでできる範囲の対応について説明をおこなっている。緊急時は、主治医とすぐ連絡がとれる体制であり、必要に応じて入院できる体制が整えられている。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族の意向を考慮し、受け入れ先の施設や病院などに一緒に出向き見学をしたり、情報交換を行っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価 3 8 項目・外部評価 1 1 項目	2	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価 3 0 項目・外部評価 9 項目	2	
		(1) 一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	0		
		52 外部 評価 23	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳を傷つけないように、言動や記録に気を使っている。個人情報についての勉強会を開催し、個人情報の取り扱いには、十分に注意するように指導している。在職中はもちろん退職後も情報の漏洩がないように指導している。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事も本人のペースに合わせて対応するようにしている。日常生活の中で本人が何を望んでいるのか観察し、自己決定できるように表現し支援している。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の身体状況や体調に合わせて、居室で過ごされたり、リビングで過ごされたりと、本人の意思を尊重しながら、行動を変更している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月訪問美容を利用して入居者の髪の長さに応じて散髪・ヘアカラー・パーマなど本人に確認してから行っている。化粧や整髪についても声かけを行ない、その人にあった方法や場所でするように援助している。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体能力や意欲に応じて、職員と一緒にテーブル拭き・盛り付け・食器洗いなどを行ってもらい、役割作りにもなっている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	肉類・魚・乳製品が食べられない方には、代替品で対応している。本人の好まれる食べ物や飲み物があれば、できる範囲で用意し楽しめるように支援している。飲酒に関しては、お正月のみお屠蘇を提供している。飲酒や喫煙に関しては、当ホームではできない事を説明している。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、その都度排泄を確認している。一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導を行ったり、声かけを行っている。それにより、オムツから下着へ変更したり、失禁による不快感を与えないようにしたりと支援を行っている。	0	
		59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、本人の希望を聞き交代したりしている。入浴を拒否される方へは、時間を置いたり、スタッフを変えたり、入浴剤を使用したりして、気持ちよく入浴できるように支援している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者には、日中に散歩したり、体を動かしたり安眠を促している。不眠時には、温かい飲み物を飲んでいただいたり、ベッドやソファと一緒に座り、お茶を飲んだりしてゆったりとした時間を作り精神的に休息できるように支援してしている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の得意なことを生活背景から探し出し裁縫・編み物・工作・習字・園芸など楽しんでもらうようにしている。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には、家族と話しあって財布に小銭のみ入れて自己管理してもらっている。買物に行くときは、本人の財布から購入してもらい、支払は、一緒に行かない領収書を必ず受け取るようにしている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、天気のよい日に定期的に行くようにしている。日常生活や洋服などの購入を希望されたときは、近くのスーパーや商店街に買物に行っている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事でドライブ・買物・お花見などの外出の機会を提供し、家族への参加をお願いして行っている。本人が行きたい場所を話されたときは、家族に報告し協力できるところは、支援している。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されたときは、ホームの携帯電話からかけて話をしてもらっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	誕生日会や各行事の案内を配布し、面会時に声かけを行ない、参加して頂けるように呼びかけている。居室・リビング・ソファなど自由な場所に入居者とゆっくり過ごせるように支援している。	0		
		(4) 安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	2	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、職員に周知徹底をし意識の統一を行っている。生命に危険を及ぼすことがない限り、身体拘束は行わない。	0		
		68 外部評価 29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの玄関や居室に鍵はかけていない。ユニットの玄関には、人感センサーを設置し、センサーが反応したときは必ず玄関へ確認に行っている。入居者の危険防止のため止むを得ず鍵をかけるときは、家族に説明を行っている。	0		
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングでは必ずスタッフが見守りを行ない、入居者のそばで観察・記録などを行っている。職員間での声かけをこまめに行い、入居者の安全に配慮している。	0		
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの状態に応じて、安全性を考えながら検討・対応している。	0		
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こった場合には、迅速にカンファレンスを行い再発防止に取り組んでいる。事故の認識を持つために、普段からヒヤリハット報告書を記入するようにしている。	1	事故を防止するために、各個人のリスクを把握し認識を高めていきたい。	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、看護職員が勉強会や業務の中で介護職員へ指導及び教育を行っている。	1	緊急時の対応については、定期的に勉強会を行っている。
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、勉強会や訓練を行っている。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応については、入居時にご家族に説明している。状態が変わった時や定期的な見直しを行っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価 7 項目・外部評価 1 項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインの測定を行ない、異常時は、管理者や看護職員へ報告や相談をして指示を仰いでいる。必要時主治医に報告し受診する。入居者の病態や異常時などに対して、ケアカンファ・会議で情報を提供したり資料を配布して対応方法を確認している。病院受診や内服処方など状態が変わった時は、連絡ノートに記入している。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的・用法・副作用などは『入居者薬管理簿』にまとめて、すぐにわかるようにしている。その日の内服薬はホワイトボードに貼付し、食事ごとに台所に持っていき、飲み終わったら、スタッフ室に戻して保管し、飲み忘れがないようにしている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を行い、摂取量が少ない入居者には、水分チェックを行ない確認している。食事時は野菜を多くし、バランスのよい献立を作成している。ご飯に玄米やにがりを加えたり、冷たい牛乳を飲んで頂くなど、便秘予防をしている。また腸の運動を促すために体操や散歩も行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時と毎食後に口腔ケアを、入居者一人ひとりに応じた声かけや介助を行っている。義歯の方は、毎晩洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、主食と副食に分けて摂取量をチェックしている。嚥下状態や摂取時間に応じ食事の形態を一口大、キザミ、ミキサーと変更している。麻痺のある方は、滑り止めマット・スプーン・フォーク・食器を変更したりして対応している。水分でムセの多い方には、トロメリンを使用している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎年インフルエンザの予防接種を行っている。手洗いを各食前に行ない手指の消毒も行っている。ノロウイルスの研修も参加して勉強会を行っている。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	チェック表を作成し、毎日包丁・まな板・ふきんは、熱湯消毒を行ない、週1回は塩素系漂白剤で消毒を行っている。食材は、賞味期限を確認し使いきれぬ量の食材の購入に心がけている。調理後は、なるべく早めに摂取し、時間をおかないようにしている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	0	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	0	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木やプランターに花を植えている。近所の方々が季節を感じたり、また回想されるように玄関先には以前からあった桜と柿の木を残している。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に和室スペースを設け照明・居室の扉・手すりにも和を感じさせる配慮をしている。壁には、季節を感じさせる装飾を入居者が作成、展示し行事の写真を飾ったりしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れた場所にソファを2箇所置いている。家族と一緒に座って話をされている。置は入居者が洗濯物をたたんだり、集う場になっている。	0		
		85 外部 評価 33	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、使い慣れた家具や馴染みのものを持ち込んで頂き、なるべく入居される前の部屋と変わらないよう、見慣れた物の中で過ごせるようにしている。写真も持って来て頂くようお願いしている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・共有部分には、換気扇が取り付けられて、二段階で調節できるようになっている。毎朝掃除やシーツ交換の時に、窓を開けて換気を行っている。居室のエアコンは、スタッフ室で集中管理しており、こまめに温度調整を行っている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室などの共用部分に手すりを設置している。トイレは車椅子での移動が楽にできるスペースと可動式の手すりがある。居室の照明スイッチも車椅子でも使用できる低い位置に設置している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の表札やトイレの表示は、入居者の目線に合わせやや低い位置にしている。入居者の表札は居室ごと絵を替え、リボンや造花・ぬいぐるみで飾ったりわかりやすくしている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏口に物干し場や畑があり、洗濯物干し・草取り・園芸を入居者と一緒に行っている。野菜は、入居者と一緒収穫し食べている。玄関周りやピロティの掃除も入居者と一緒に行っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
サービスの 成果に 関する 項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	2		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。